

## 単位価格表示の文字の大きさについて

- ・視認距離と視力に対する最適な文字の大きさは次の式により求められる。  
文字高さ ( E ) mm = 視認距離 ( L ) mm /  $12 \times \tan 1 / \text{視力}$
- ・スーパー等における買物客と商品棚との距離については、一方の商品棚を見ていた客が、その場から移動せず、隣接した商品棚を見るようなケースも想定し、およそ 1 m 程度と考えられる。
- ・65 歳程度の高齢者の視力を 0.3 ~ 0.5 程度として、上記の式にあてはめた場合、最適な文字の大きさは 14 ポイント、最低限確保すべき大きさとしては 9 ~ 10 ポイント程度となる。
- ・通常のスーパーの店舗内の照度はおおよそ 500 ルクス程度であると考えられる。ただし、棚の下等の陰になる場所では、もう少し暗くなる。照度が落ちれば、見にくくなるため、必要な文字の大きさはさらに大きくなる。
- ・高齢者にとっては、6、7、8 ポイントはポイント数が上がっても見え方はほとんど変わらず、10 ポイント程度から急に見えるようになる。
- ・単位価格をレイアウトする際、販売価格のような大きな文字の真上に表示すると、実際よりも小さく見えてしまうことがある。この場合には、1 行程度行間を設けてやると、視認性が高まる。

( 広島国際大学人間環境学部 長町三生教授からのヒアリング結果による。 )